

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(5/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
かがわ医療福祉総合特区(香川県)	4.0	4.5 進捗度 ・へき地薬局研修参加者数 105% ・複合型サービス施設 80% ・島しょ部における地域包括ケア病床の確保 210%	3.5 規制の特例等 ・地域包括ケア入院管理料1の施設基準の緩和等 地域独自の取組 ・複合型福祉サービス充実事業	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島しょ地域での在宅医療・ケアの包括的な支援の取組を、コロナ禍の影響を受けながらも着実に実施している点を評価しておきたい。事業の持続性に対応する報酬(診療・介護)の改善を視野に入れている点に注目しておきたい。</li> <li>・種々の制約がある中で、地域医療の発展を目指した取組に対する目標が達成されていることが理解できる。</li> <li>・特区の規制緩和を活用して、小豆医療圏における地域包括ケア病床を確保し、また患者の在宅復帰率も上昇している点が、島しょ部の地域住民に持続性のある安定した地域医療を提供する取組として評価できる。</li> <li>・地域包括ケア病床が確保された結果、患者の在宅復帰率が増加していることは評価できる。今後、医療情報ネットワークシステムの活用等により、薬局と医療機関等の連携により質の高い健康サービスを提供することが期待される。</li> <li>・目標に対する達成度が高いことは評価される反面、当初の目標値は妥当であったか否かの検証の余地が残される。</li> <li>・島しょ部ならではの苦労があるかと思われるが、早期に完成している印象で、その後の進展がわかりにくい。在宅看取り率、要介護認定率などは全国的に比較が可能なので、そのようなアウトカム指標も含めて現状の課題とその解決の程度が吟味できると更に特区としての発展が期待できるのではないか。訪問看護は島しょ部含め全国に普及しており、特区としてのオーブナースの活動の独自性がわかりにくい。</li> </ul>